

中期経営計画（2024-2026）策定のお知らせ

長崎空港ビルディング株式会社（本社：大村市、代表取締役社長：衛藤 勇）は、アフターコロナなど今後の経営環境の変化を見据え、2024年度から2026年度までの3カ年を対象とする新たな中期経営計画を策定しましたので、下記の通りお知らせします。

1. 中期経営計画（2024-2026）の概要

（1）経営ビジョン／経営方針

経営ビジョン 「地域に貢献し、共に成長できる空港」

経営方針 「持続可能な空港経営に向けた基盤づくりと価値創出への挑戦」

当社は空港ターミナルビルという公共性の高い施設の運営を担う会社として、継続的に、安全・安心・快適な空港機能を提供し、社会の信頼に応えることで、社会経済の発展や地域の活性化に貢献していく使命があると考えます。

新たな中期経営計画（2024-2026）では、経営方針に「持続可能な空港経営に向けた基盤づくりと価値創出への挑戦」を掲げ、これまで同様、安全・安心・快適な空港機能を持続的に提供していくとともに、2025年の長崎空港開港50周年等を機とした長崎空港の価値向上に向けた取組みを進めることで経営ビジョンである「地域に貢献し、共に成長できる空港」の実現を目指します。

（2）経営戦略／ありたい姿

対処すべき経営課題を踏まえ、3つの経営戦略と、戦略毎に目標とする「ありたい姿」を設定しました。

経営戦略	ありたい姿
1. 人を大切にする経営の追求	①安全・安心を確実に提供し、すべての人にとって利用しやすい空港
	②多様な人材が力を発揮でき、社員や家族、地域からも愛される企業
2. 選択と集中による強靱な経営体質の確立	イベントリスク等、航空需要低迷時においても収益を確保できる筋肉質な企業
3. 空港の価値向上に向けた取組みの推進	①開港50周年等を機に、様々な分野で地域と共生し、その魅力を発信する空港
	②空港利用者の更なる拡大に挑戦し、地域の活性化に貢献する空港

（3）重点施策

中期経営計画達成のため、以下の項目について全社を挙げて取り組んでまいります。

- ①ユニバーサルデザインの推進等、すべての人にとって利用しやすい空港づくり
- ②健康経営の推進等、社員や家族、地域からも愛される企業づくり
- ③各事業部門における将来構想検討等を通じた経営の強靱化
- ④長崎空港開港50周年事業等を機とした、魅力発信と空港の存在価値向上
- ⑤航空ネットワーク拡充に向けた取組みの推進（ハンドリング受入体制の強化等）

(4) 最終年度（2026年度）における目標値

経営目標	2023年度実績（予測）	2026年度目標値（*1）
①売上高	4,805百万円	5,598百万円
②営業利益	263百万円	327百万円
③営業利益率	5.5%	5.9%
④社員満足度（*2）	3.1点	3.5点

（*1）2026年度乗降旅客数予測 356.8万人（国内線 344万人、国際線 12.8万人）にて算出

（*2）全社員に対するアンケート調査により社員満足度を測定（満点 5.0点）

以上

【問合せ先】長崎空港ビルディング株式会社
経営企画グループ 担当 町田・前田
TEL 0957-52-8830

【発信元】営業推進グループ 担当 大崎